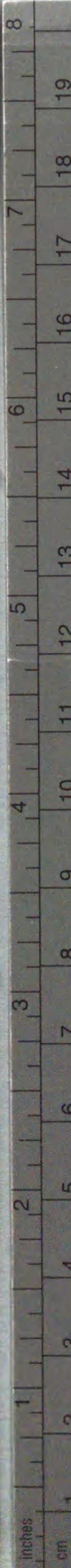


ギゾー氏著
永峰秀樹譯

歐羅巴文明史

十一

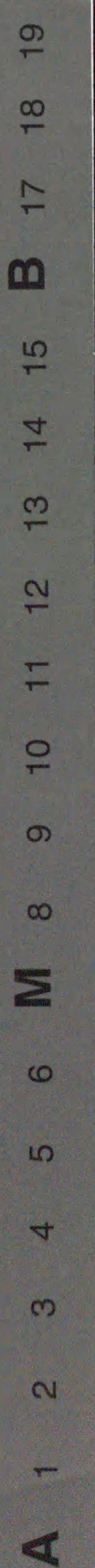
和第五百八拾九號

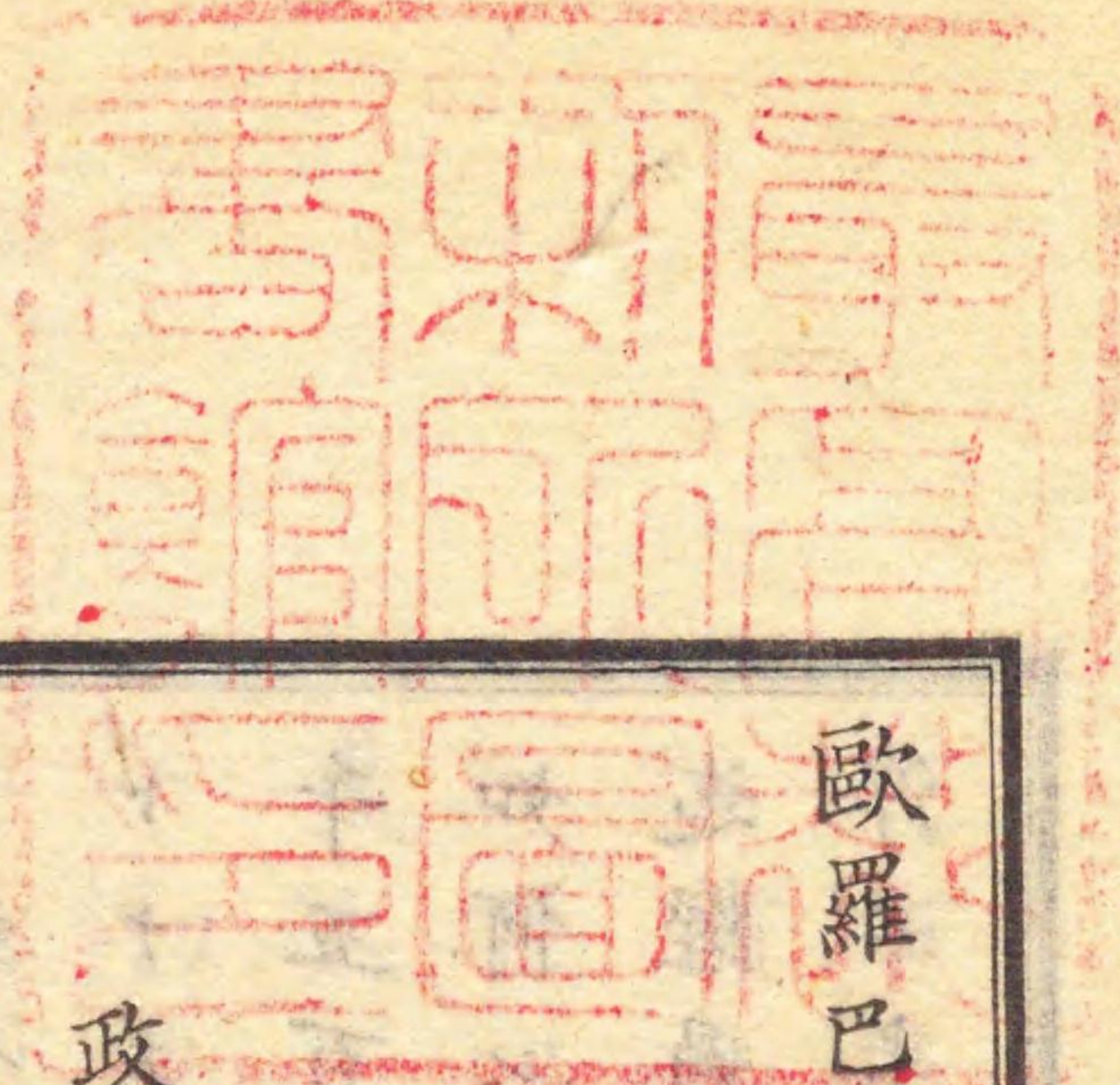


Kodak Color Control Patches



Kodak Gray Scale

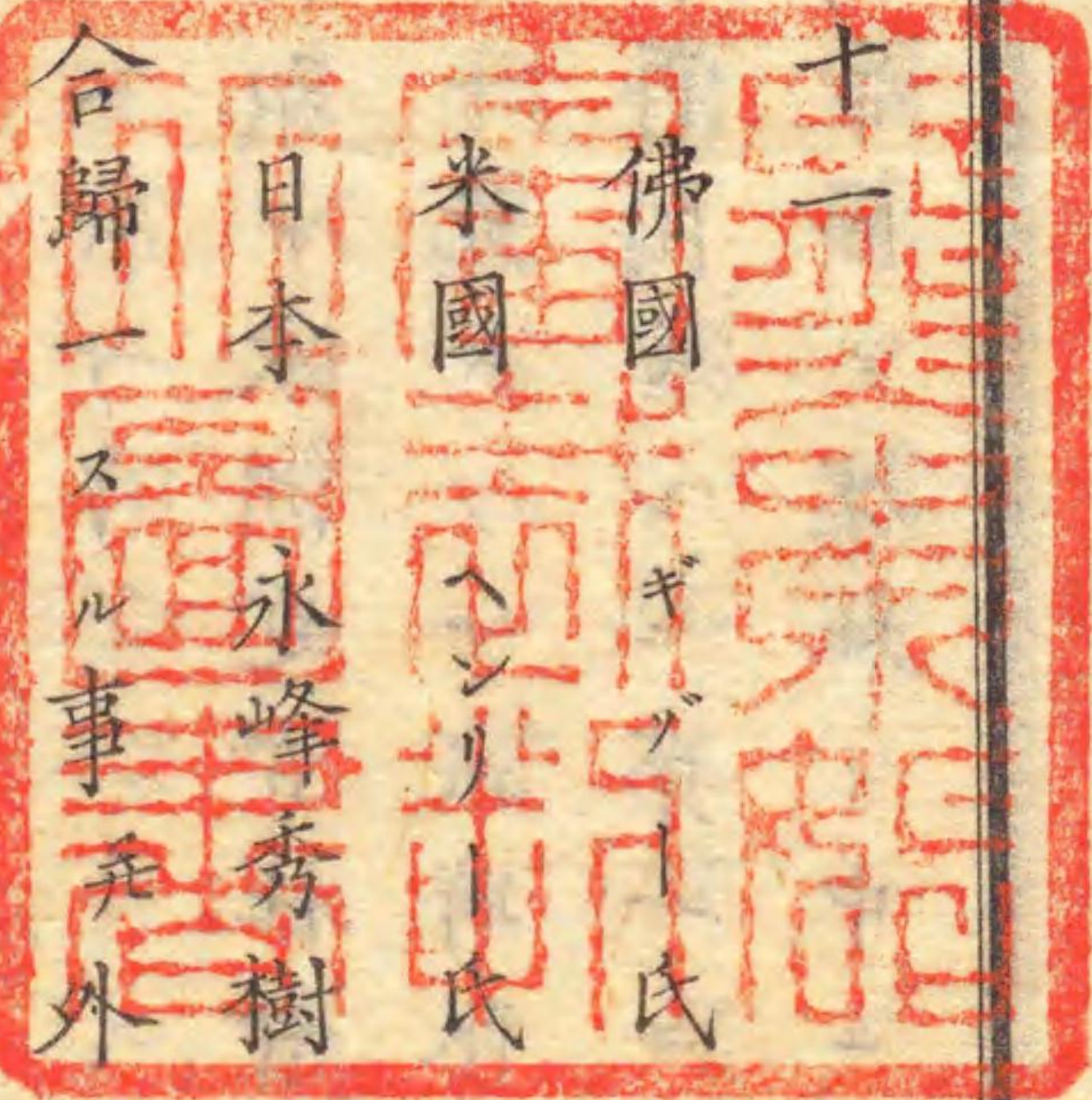




最高裁判所圖書印

歐羅巴文明史卷之十一

政府人民ノ聚



原著

譯述

再譯

外交術等

此編ニ至リ初メテ真誠ニ近古歴史ト稱スヘキ者ノ門口ニ達スルヲ得其國形民情ハ改良シテ吾人ノ國家ト稱シ吾人ノ人民ト稱スヘキ社會ノ光景ヲ講スルヲ得ヘキナリ制度意見風習等ノ當時歐洲ノ他邦ニ行ハルノ者ヲ見



佛國ギブー氏著

暉秀樹譯

維巴文明史

奎章閣藏版

G21785
38.10.22
管理換
高松市立図書館

高松市立図書館
蔵書印

最高裁判所図書館

歐羅巴文明史卷之十一

政府人民ノ聚

佛國ギゾー氏
米國ヘンリー氏
日本永峰秀樹
合歸一スル事
外交術等

原著
譯述
再譯

此編ニ至リ初メテ真誠ニ近古歴史ト稱スヘキ者ノ門口ニ達スルヲ得其國形民情ハ改良シテ吾人ノ國家ト稱シ吾人ノ人民ト稱スヘキ社會ノ光景ヲ講スルヲ得ヘキナリ制度意見風習等ノ當時歐洲ノ他邦ニ行ハルノ者ヲ見

版 權 免 許

佛國ギゾー氏著
日本永峰秀樹譯

歐羅巴文明史

東京 奎章閣藏版

レハ四十年前佛國ニ行ハレタル所ノ者ナリ佛
國ノ大變革ヨリシテ世形ノ變セル者少カラス
ト雖氏尚ホ佛國ハ他邦ノ先導者タルヲ失ハス
サテ上編ニモ説キタルカ如ク始メテ歐洲近古
ノ社會ヲ構成シタルハ千五百年代ヲ以テ初期
トナスヲ記得スヘキナリ

千五百年代ノ事物即チ歐洲近古社會ノ初狀ノ
如何ンヲ推考スルニ先タツテ此時限ニ達スル
迄經過セル光景ヲ再閲センニ第一ニ思想上ニ
浮ヒ來ル者ハ羅馬帝國ノ墟址ノ中ニ於テ歐洲

近古ノ諸社會(即チ國家ヲ構造スルニ必要トス
ル諸元質)盡ク其頭角ヲ顯ハシ又其諸元質ハ盡
ク區々ニ獨立シテ相連合スル者ナク個々ニ其
盛大ヲ致シタルナリ。次ニ浮ヒ來ル者ハ諸元質
ハ初生ノ時期ニ於テ常ニ相分離スルノ方ヲ務
メ區域ヲ分チテ割據セントスルヲ努メタリ
然ルニ封建政体、自由市邑、聖會等ノ諸元質ハ獨
立割據シテ各其固有ノ形躰ヲ備具シ既ニ其冀
望ヲ遂ケントスルノ有様ヲ有ツ時ニ至リテ各
自カラ忽然相連結シテ其狀ヲ近似合同シテ以

テ一定ノ社會ヲ為シ一種ノ國民ヲ成シテ之ヲ
一政府ノ下ニ管理セシメントテ努力カシ以テ政
府人民ナルニ物ヲシテ國家ヲ構造スルノ二大
カタラシメントスルニ努力セリ各國其現時ノ
事情ニ應シテ其取用スル所ノ政体ヲ異ニシ或
ハ神權政ヲ用ユルアリ或ハ侯權政ヲ用ユルア
リ或ハ民權政或ハ王權政ヲ用ユルアリテ以テ
其社會ヲ合同スルノ基本トシ又政事人事ノ義
務ノ歸着點トナサントセリ然レ此時ニ至ル
迄其計較盡ク左シ一モ其目的ヲ得ル者ナク未

タ一種ノ政体モ能ク全社會ヲ其配下ニ致シ以
テ真個合同ノ功ヲ奏シテ政府人民ノ二者ニ皈
セシムルヲ能ハサリキ余レ前編ニ於テ合同ノ
成功ナキハ衆民ノ利害一ニ皈セス全國ノ意志
同シカラサルニ由レルヲ講示セリ余レ又千五
百年代以前ニ各事物都テ乖異獨立シテ其位
置形状ノ親和セサルノ度太甚ナルヲ講示シ又
是ノ如キ諸社會ヲ合同ニ直チニ廣大堅強ニシ
テ且ツ規律アルノ社會トナラシメントハ須ク
權力ヲ集合スルノ一點アリ其集点タル者ハ權

國羅巴交印史
區羅巴夕日史
卷之十一

カ洪大ニシテ且ツ永續スル者ナラサレハ合同
ノ事業ハ決シテ行ハレサル事ヲモ講示セリ以
上ハ即チ千三百年代ノ末期ニ至ル迄ノ歐洲ノ
概状ナリキ
千三百年代ノ末ニ至リテ歐洲ノ形状ハ正ニ上
條ノ如クナリシト雖モ當時歐洲ノ人民ノ知識
ハ尚ホ未タ吾カ卿等ニ講示セル所ノ利害得失
ヲ自カラ知得スルノ度ニ至ラス其當ニ求ムハ
キ所ノ者ハ何物ナルヘキヤ其今方ニ求ムル所
ノ者ハ何物ナルヤヲモ自カラ知ラサリキ然レ

凡其行フ所ヲ見レハ真個其位置形勢ヲ洞察シ
テ其事務ヲ知レル者ノ如シ千三百年代ノ季年
ニ至リ一政体ヲ以テ全歐洲ニ取用スル所ノ政
体トナサントスルノ計較ハ盡ク失敗シタル時
ニ至リテ歐洲ハ其天性ニ感覺スル所アリタル
カ如ク其時宜ヲ過タス自然ニ中央ニ集合スル
ノ道路ヲ取り公利公心ヲ起シ民人ノ見識ヲシ
テ高尚ナラシメ此時ニ至ル迄未タ其大成ヲ得
サル所ノ政府人民ノ二大カヲシテ社會ノ權力
ノ集合スル所タラシメント努力セシ者ハ實ニ

史羅巴交印史
卷之十一
四

千四百年代ノ形状ナリ
預メ是ノ如キ大變化ノ基址ヲ備ヘタルハ千四
百年代ノ事ナリト雖凡其能ク政府人民ナルニ
物ヲ造リ得テ聚合飯一ノ大業ヲ成就シタルハ
千五百年代及ヒ千六百年代ノ間ニアリ事變ノ
自然ヨリ生シ人意人謀ニ出タル者ニ非スシテ
能ク交際ノ法ヲ改メ衆人ノ心ヲ高クシ以テ能
ク聚合歸一ノ基礎ヲ奠タシ中ニ預備シタル者
是レ即チ本編ノ專ラ講説セントスル所ノ主意
ナリ

高麗河文明史
區點已夕明史

卷之二十一

此大業ヲ成功スルノ光景ヲ觀ルニ人々自己ノ
思慮シテ得タルノ計謀ニモアラス又躬自カラ
其事ニ從事スルモ其事ノ真性ノ何物タルヲモ
知得セサルニ其事業ヲ成全スルノ順序方向ヲ
誤テス其真意ヲ探レハ自己ノ計謀ニ出テサル
モ機巧驚クヘキノ業ヲ營ミ其結果ニ至リテ其
本形ノ現ハルニ至ルマテハ毫モ其事業ノ性
質ノ何物タルヲ解セス剩サハ其事成リ其形見
ルヘキノ後ト雖凡尚ホ僅カニ其一片ヲ見テ其
全功全能ヲ了解スル能ハス、仮令其全功全能ヲ

高麗河文明史

卷之二十一

了解スル能ハサルモ其大業ノ終ニ能ク全成ス
 ル此ノ如キ者ハ人功ナリ。人ノ能ク此ノ如キ大
 功ヲ成遂ケタルハ才智ト自由トノ解發セルノ
 結果ナリ。試ミニ大機關ヲ取りテ之ヲ視ヨ其各
 部ハ之ヲ分ツテ專ラ若干ノ工匠ニ托スト雖モ
 其之ヲ構成スル大本ノ利害ヲ知悉セルハ獨リ
 一人ノ意匠ニ飯ス諸工匠タル者ハ方ニ從事ス
 ル所ノ一部ハ其成果ノ後果シテ如何ナル利用
 アルヘキヤヲ了解スル者ハ一人モアラジ只管
 其命セラレタル部分ニノミ日夜其自由ノ才智

ヲ働カシテ特ニ其一部ノ善美ナラレバヲ勤ム
 ルナリ之レ正ニ天帝ノ意匠ニ従カヒ人カヲ以
 テ斯世ノ政府ヲ構成セルノ有様ナリ諸色ノ人
 民ハ各其自由ノ才能ヲ用ヒテ勉勵成全セル一
 部ノ職業ヲ聚合シテ終ニ能ク一個ノ大機器ヲ
 構造セシ者ナリ而シテ茲大機器ハ其名ヲ政府
 ト云フ此政府ハ即チ目今吾人ノ取用スル所
 政府ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ文明史中ニ個
 著明ノ事業相並立スルヲ知得スヘキナリ二事
 トハ何ソ曰ク其一ハ人智人謀ノ區域ヲ超ヘ全

ク天意ノ發縦ニ出テタルノ事業トスヘキ者其
二ハ人智ヲ以テ其成功ヲ輔相シタル者是ナリ
由ノ才智ヲ以テ其成功ヲ輔相シタル者是ナリ
千四百年代即チ近時歐洲社會ノ先鋒タル時代
ノ事物ヲ明説センカ為ニ當時ノ事物ヲ類別シ
テ之ヲ講セシ初メニ先ツ大政府ノ構造ニ関ス
ル者若クハ全社會ノ構造ニ関スルカ為メニ生
シタル諸變革等ノ如キ世事政務上ニ関スル者
ヲ查察シ次ニ意志風俗等ノ如キ心智思想上ニ
関シタル諸變革ヲ查察シ終ニハ此時代ヨリシ

テ何等ノ公議輿論初メテ萌芽ヲ生シタルヤヲ
講示セントス
世事政務ニ関スル者ヲ論スルニ其煩冗ヲ去リ
簡約ヲ主トシ歐洲中ノ大國ノミヲ取ツテ一々
ニ之ヲ講シ以テ千四百年代ニ於テ世事政務ノ
起伏セル光景ヲ示サン
先ツ佛國ヨリ説起サンニ千三百五十年頃ヨリ
千四百五十年頃マテハ卿等モ熟知セルカ如ク
佛ノ國歩ハ艱難ヲ極メタル時ニシテ英國ノ羈
索ヲ脱シ獨立ヲ維持セント英佛兩國ノ間ニ大

戦争連リテ休ム片ナカリキ當時ノ佛史ヲ閱セ
ハ國中反逆争擾モ少ナカラサレ氏之ヲ概状ス
レハ佛國諸種ノ人民ハ封建ノ貴族ヨリ農工商
賈ニ至ルマテ盡ク愛國ノ熱心ヲ以テ干戈ヲ荷
ヒ相共ニ力ヲ戮セテ國敵ヲ其境外ニ驅出セン
ト黽勉セサル者ナキヲ見ン他事ヲ閣キ特ニジ
ヨアン、ド、アルクノ一事蹟ノミヲ以テスルモ既
ニ當時ノ景況ヲ察スルニ足ランジヨアン、女ハ
家系賤シキ一雇婢タルモ其人心ヲ得タル斯ノ
如クナル者ハ當時ノ人民ノ信仰セル教法ト民

國羅亞次明史
卷之十一

情トニ合シタルヲ以テナリ當時ノ朝官將帥ハ
「ジヨアン」ヲ嘲侮疾怒シテ敢テ其言ヲ信スル者
ナカリシト雖氏兵卒國民ハ盡ク「ジヨアン」ヲ尊
崇シ之ニ悦從セリ「ロルレー」佛ノ郡名人ノ「ジヨア
ン」ヲ將トシテ「アル」リ「レ」ヲ赴援シタルカ如キ
者ハ當時全國人民ノ思向盡ク國敵ヲ退ケント
スルニ一致シタルヲ明徴スヘキナリ「ジヨアン」
ハ「アル」クノ「ジヨアン」ト云フ義ナリ「ジヨアン」
佛國有名ノ勇婦ナリ其父母固ヨリ賤シカハ
レハ「ジヨアン」少時ヨリ旅館ノ雇婢トナリタリケ
シカ英軍「ベット」フ「アル」ド侯「ヲ」シ「ヨアン」ル「一」ル「夜佛
ス」ク「守護」ノ天使ト称スル時ニ際シ「ジヨアン」ル「一」ル「夜佛
國

次羅亞次明史
卷之十一

被リタルヲ夢ト賜言シテ佛國之ヲ再興シ王
 即位セシムルハ賜言シテ其真偽ヲ試ミト服
 者衆シテヤハルニシヨア直ニ進シテ誰カヲ
 変シ朝官ニ難ハリヨア直ニ進シテ誰カヲ
 シヤト問フタルニ議院ハ王ヲ即位セシメ
 論ヲ約シタルハ甲胃ニシテ請フ許シタリ
 因テシヨアハ悦ケテ進シテ即位セシメ
 女ナルヲ信シテ益々進シテ即位セシメ
 フ救ヒ英軍ヲ退ケテ進シテ即位セシメ
 シ王ヲ迎ヘ例ニ依リテ是ヨリシテ即位セシメ
 シメ以テ佛軍ハ勢ヲ得テ遂ニ佛國ノ獨
 氣沮ミ佛軍ハ勢ヲ得テ遂ニ佛國ノ獨
 スルヲ得タリヨアハ悦ケテ進シテ即位セシメ
 役ニ英軍ニ俘置其當ヲ失フ罪セラレテ火殺
 以テ大ニ國辱ヲ招ケリ
 全佛蘭西國一定シ國情是ニ於テカ初メテ端ヲ

發キタリ「ガ」ア「ロ」ア「」氏ノ朝以前ニハ封建政体
 ノ氣風專ラ佛國ニ行ハレ佛國ノ國民ト云ヒ佛
 國ノ氣象ト云ヒ及ヒ佛國ノ愛國心ト云フヘキ
 者ニ至リテハ未タ嘗テ發生セサリキ故ニ真個
 佛國史ト云フモノハ「ガ」ア「ロ」ア「」氏ノ朝
 ハ「フ」リツ「フ」四世ニシテ千ヨリ以後ノ歴史ヲ稱
 三百廿八年ニ即位セリ
 スヘキノミ此朝ニ於テ國中ノ貴族市民農夫等
 相共ニ倫理ノ綱ニ結ハレ國各國譽ノ綱ニ結ハ
 レ又熱心ニ外寇ヲ壓服セント希望スル等ニ因
 テ以テ初メテ戮力協心ノ事業ノ佛國ニ現ハレ

大正十一年 九

タルハ國事多端ニ爭戰相連リテ解ケス國運極
メテ危急ナルノ時ニ現セル者ナリ然レモ吾人
若シ方今吾人ノ所謂ニ同政府一制度ノ下ニ全
社會ヲ置カントスル所ノ真個政略ノ精神ヲ當
時ノ佛國ノ中ヨリ摘出シテ之ヲ見ント欲サハ
甚タ誤レリ當時佛人ノ同心戮力シテ希望スル
所ハ外侮ヲ禦キ自國ノ政府ヲ保存シ外人ヲシ
テ國事ニ関セシメスシテ能ク其獨立ヲ保存ス
ルヲ得ハ政体法令ノ性質ノ如キハ其歸本何
者ナルモ之ノ問ハス甘ンシテ之ヲ建設セント

セシ者ナリ當時佛人ハ是ノ如キ精神ヲ以テ英
國ト攻戰ヲ務メタルヨリシテ獨立ヲ維持シ真
個ノ佛國ヲ構成シ又兼テ終ニ諸色ノ人民ヲ陶
治シテ合同セシムルニ大功アリタルナリ
斯ク佛國ハ其國心ヲ湊合一定スル際ニ於テ兼
テ其境界ヲ廣メテ之カ區域ヲ明画シ又之ヲ固
定シタリ當時實ニ方今佛國ト稱スル版圖ノ大
半ヲ合弁シタルノ時限ナリ千四百二十二年ヨ
リ同六十一年マテ「チャールズ」七世ノ世ニハ英
人ヲ國外ニ逐退ケ往日英ニ奪略サレタリシハ

國史
卷之十一
十一

ルマシデ「アングーモ」ト「ロートン」ボイト「セ
ーントー」等ヲ恢復シ千四百六十一年ヨリ同
八十三年マテ「ル」井「ス」十一世ノ世ニハ「ロ」ス
シ「ト」ヨシ「セル」ダシ「ボル」ゴシ「デ」フ「ラ」シ「ユ」コ
シ「テ」ピ「カル」デ「アル」ト「ア」プロ「グ」エ「ン」ス「メ」
「ア」シ「ジョ」「バル」シ「等」ノ十州ヲ合兵シタリ中
三州ハ其後英ノ為ニ奪略サレシカモ今佛ニ
屬ス千四百八十三年ヨリ千五百十五年マテ「チ
ヤ」ール「ス」八世及ヒ「ル」井「ス」十二世ノ二王ハ相
繼キテ共ニ「ブリ」タニ「」ノ女王「エ」シ「ラ」后トナ

セシテ以テ「ブリ」タニ「」モ亦佛ノ版圖ニ入りタ
リスク佛蘭西ハ同時ニ心智世事共ニ合同集聚
シテ忽チ一個ノ強國トナリタリキ
國事上ノ形状上ノ如シ今更ニ政府ノ有様ヲ閱
歴スルニ又同性質ノ事業起リ其成功モ亦同状
ナルヲ見シ佛國政府ノ分離騷擾甚シク其虛弱
ヲ極メタリシハ千三百八十年ヨリ千四百二十
二年マテ即チ「チ」ヤール「」六世ノ世及ヒ「チ」ヤール
「」七世ノ初年ヲ以テ甚シトス千四百六十一
年即チ「チ」ヤール「」七世ノ末年ヨリ万事其光景

國史
卷之十一
十一

一變シ政府ノ權勢ハ著シク増進シ其結構モ
更ニ善美トナリ政府ノ大本タル租稅軍備司法
ノ制度等モ前時ニ比スレハ頗ル整備廣大トナ
リ其他ノ事物モ曩時ニ比スレハ其面目ヲ改メ
均シク進動ノ勢アリタリキ此時ヤ實ニ常備
兵及ヒ民兵ヲ創置シ又騎弓歩ノ三兵ヲ合シタ
ルト云ハベニドボル下ナント稱スル軍隊ヲ創
置セリチヤ^ルル^ス七世ハ此等規律アルノ諸軍
ヲ制定シ其功ニ因リテ以テ從來平時ト雖^兵
卒^ノ為^メニ掠奪乱妨ヲ苦セ^之カ^為メニ蕭條

ヲ致セルノ諸州ヲシテ再ヒ平定治安ヲ得セシ
メタリキ當時ノ諸史家「^コム^ペニ^ード^ルド^ナン
ト^ノ功績ヲ稱スル噴々タリ王家支給ノ眼目タ
ル^テト^ル」^田租^ノ名^ヲ創定シタルモ此時ニ於テセリ
此^テト^ル租^ヲ置キシハ國民ノ自由ノ權ヲ侵ス
甚タシキ者ナリ然レ^ハ政府ヲシテ規律アリ又
勢力アラレ^メタルニ於テハ其功^テト^ルニ^取ル
ル最大ナリ
「^テト^ル」ハ原来佛語ノ租稅ノ義ナリト雖^ハ此
條ニ用ヒタル^テト^ルハ^チヤ^トル^ス七世ノ世

國羅巴明

卷之十一

於王ノ意ヲ以テ恣ニ國民ヨリ征收シタ
 ル一種ノ稅ヲ云フナラシカ佛國ノ通法トシ
 凡ソ租稅ヲ賦スルハ必ス議院タルステ
 出ス、ゼ子ラル前編ニ許可ヲ要スヘク國王
 ノ獨裁ヲ以テ租稅ヲ賦スルコトヲ得サルナリ
 然レハ時情急切ナルニ當リテハ議院ノ肯不
 肯ニ関セス國王強テ其權限ヲ侵ストモ少ナ
 カラサリキテ賦スルノ通法ハ僧徒ノ
 薦舉シタル名望アルノ人物ヲシテ之ヲ司ラ
 ンメタリ此稅ヲ出ス者ハ租稅ノ支給上ニ一

分ノ啄ヲ入ル、トノ免許ヲ得タリ然レハ此
 稅法ハ佛國憲法ノ道ニ及キ國民協議ノ稅則
 ニアラス「テ」ルヲ賦スルヲ以テ通法トナシ
 タルハ千四百三十九年ニステ「ト」ス、ゼ子ラ
 ルノ許允セル所ナリト唱スルト雖ハ律令中
 ニ此事ヲ記載スル者ナシ
 議院ノ許可ノ有無ハ尋問ニ益ナシ但「テ」ル
 人賦斂ハ抵抗ヲ受ルトナク王家常ニ用ヒタ
 ルノ稅法ナルハ甚タ明カナリ「テ」ヤール「ス」セ
 世ノ治世中ニ常備兵ヲ置キタル「ト」、又此兵備

史記

卷之十一

ノ費用ニ給スルカ為メニ「¹」ト称スル一
種永久ノ租税ヲ賦シタルノ一事ハ此時限ノ
ニ大事ニシテ佛民ノ自由ニハ大不幸ナル者
ナリ是ヨリシテ王家ノ威權ハ日月ニ隆盛ト
ナリ之ヲ抵抗スル者少ク貴族ハ政事上ノ
威權ヲ失ナレ國民モ政事上ニ權ヲ増ス所ナ
ク王家ハ祖先ノ計謀ヲ世襲シテ更ニ之ヲ改
良シ終ニ王家ノ擅權專制ヲ成全スルニ至レ
リ
是時ニ於テ權勢ノ大器械タル治國ノ法度モ具

備シテ廣大トナリ數十年ヲ經サル中ニ五ヶ所
ノ議院ヲ創立セリ其創立セル五ヶ所ノ議院ハ
第一ニ「¹」¹「¹」¹十一世ノ世ニ於テ千四百五十一
年「¹」¹「¹」¹ノ議院第二ニ同六十二年ニ「¹」¹「¹」¹ノ
議院第四ニ「¹」¹「¹」¹十二世ノ世ニハ千四百九
十九年ニ「¹」¹「¹」¹ノ議院第五ニ千五百一年ニ「¹」¹「¹」¹
ノ議院是ナリ此際ニ當リテ巴理府ノ議院
モ政治ノ權ヲ分チ府内ノ警察事務ヲ監督スル
ノ權ヲ得テ其重要ノ度覺カニ昔日ニ増加セリ

斯ク佛國ノ政府ハ兵制ト云ヒ税法ト云ヒ政治
ト云フカ如キ政府ノ須要トスル凡百ノ事物ハ
千四百年代ノ中ニ確乎トシテ制定シ盡ク一所
ニ聚合シ又古時ノ如キ潰乱ノ状ナク万事前代
ノ人氏ノ夢ニモ想ヒ及ホサ、リシ高度ニ達ス
ルヲ得タリ又世情是ノ如キヲ以テ封建ノ勢
カハ終ニ國家合同ノ勢力ノ為メニ廢滅サレタ
リ
是ノ時ニ當リテ又上條ト甚々其性質ヲ異ニセ
ルノ一變革ヲ成就セリ此變革ハ政治ノ方法上

ニ於テ「ル」非「ハ」十一世ノ敷行セラル變革ニシテ
其變革ハ上諸條ノ如ク見易キ者ニ非サルヲ以
テノ故カ諸史家ノ眼光ノ外ニ遺忘サレ此点ニ
注意スル者少ナシ然レト雖凡其事タルヤ前諸
條ニ比スレハ更ニ重要大切ノ變革ナリ
歴史ヲ覽ルニ千四百六十一年ヨリ千四百八十
二年マテ「ル」非「ハ」十一世ノ事業中國中ノ貴族
大臣ヲ敵視シテ之ヲ制服シ市民ノ如キ卑賤ノ
種族ヲ負羸シタルヲ稱贊スル者頗ル多シ其稱
贊ハ其實ニ過キタリ王ハ貴賤ノ種族ニ愛憎ヲ

リタルヨリシテ國家ノ利益ヲ為スハ小ニ却テ
國家ノ禍害ヲ醸ス大ナリ敢テ之ヲ嘉賞スハキ
ノ業ニアルサルモ其事蹟ノ虚實如何ニ尋
レハ乃チ實ナリ諸記者ノ賞スル所ハ此王ノ種
族上ニ愛憎ヲ異ニシテ点ニ於テスルハ其皮
膚ヲ見テ未タ其肺肝ヲ洞察スル者ニアラス吾
カ此王ノ事業ヲ論スル者ハ諸記者ノ見ル所ト
異ナリ昔日ノ政府ノ用ヒタル者ハ專ラ勢力ニ
テ人ノ説諭奨勸ト人心ヲ鼓舞シ籠絡スル事トヲ
以テ人民ヲ誘ヒテ政府ノ計較上ニ致シ来スヲ

勉メサリキ言論奨勸ト鼓舞籠絡トヲ以テ己カ
計較上ニ誘ヒ入ルカ如キ者ハ之ヲ術數ト云
フ術數ナル者ハ必ス詭詐狡猾ナリ然レモ是レ
亦治理政略ノ一ナリル^ル井^井ハ十一世ハ此術數
智略ノ政ヲ以テ勢力ノ政ニ換ハ心カノ政ヲ以
テ体カノ政ニ代ヘ封建ノ政法ニ代ルニ伊太利
ノ政法ヲ以テセリル^ル井^井ハ十一世ト^トチャール
ス^スゼ^ゼボ^ボール^{ール}ド^ドデ^デボ^ボル^{ール}コン^{コン}ナル當時爭衡ノ二王ヲ
取ツテ之ヲ比較センニチャールス^ス侯^侯ハ純^純ラ古
時ノ政法ヲ襲用シタル者ニシテ特ニ勢力ヲ特

G21785

動モスレハ輒チ軍ヲ起シ言論獎勵忍耐ヲ以
テ人ノ心服ヲ来シテ之ヲ己カ計較上ノ器械ニ
用フルコト能ハス然ルニ「ル」非「王」ハ勢力ヲ用
フルコト好マス言論獎勵ノ法ヲ用ヒ巧ニ利
シテ之ヲ誘キ以テ人ノ歡心ヲ得テ以テ己カ利
用トセシコトヲ務メトセリ故ニ王ノ變革セシ政
術ハ國法ノ如キ衆目ノ明視スハキ所ニアラス
特ニ隱々密々ノ中ニ變革シテ之ヲ明示セス真
ニ所謂ル權謀ヲ巧用セル者ナリ此政法長ク保
存シテ方今ニ至リ終ニ能ク更ニ善美ノ大變革

ヲ起シ其效驗ハ益高大トナリ曩時私利ヲ計リ
タルモノハ代リテ公益ヲ計リ狡猾ニ換ルニ公
正ヲ以テスルノ明政ヲ致サントスルノ方向ヲ
得セシメタリ當時此王ノ行事ハタトヒ譎詐狡
猾ニ出テタルモ勢力ヲ去リ助ヲ心智ニ借リ那
ノ暴威ヲ以テ目的ヲ達セントシテ其妨碍ヲ為
ス物ハ盡ク暴力ヲ用ヒテ之ヲ挫折スルカ如キ
ノ蛮習ヲ不用ニ置キ其政治ハ必巧ス衆庶ノ認
許スル所ノ者ヲ取用セルニ至リテハ政法ノ進
歩ノ著明ナルモ「ナリ」此王終身ノ所業ハ過失

罪惡夥シト雖モ其資負ハ剛戾ナルニ似ズ能ク
 其政治上ニ暴カヲ用セテ單ニ心カヲ以テシ提
 人如シ第一大善變革ヲ政治上ニ創生シタルヲ以
 テ其功ヲ其過ヲ償ハ餘リテ均クシク
 今佛蘭西ヨリ遷リテ西班牙ヲ見ルニ均クシク
 同性ニ行動アリ此國ノ割據分裂セルモ前ノ一
 并一個ノ王國トナシ全國ヲ一政府ト下シ統ス
 シタル人同シク千四百年代ノ事ニシテ此百年
 間ニ列ラチカ原書ニ列レナダト記ス然レモ其
 突見ハコロハスニ屬シ後年ニアリ且ツ列ラス
 ナタハ西班牙南部ノ一府ニシテ古時ヨリス

即チ亞非利加北邊人民ノ府タルト歴々ヲ克復
 タレハ今私カニ更メテ列ラナダト記スヲ克復
 シムルスト耶蘇教トノ久戰初メテ終リ又當
 時國中ノ大國タリシカスチールアラゴンノ二
 國ハ「アルヂナント王トイサベルラ女王ノ婚嫁
 ニ由リテ合併シ西國ノ權勢ハ次第ニ中央ニ集
 マリ全國一政府ノ管理ニ屬シ王權政体ノ威力
 ノ洪大トナリ且ツ固定スルノ状ハ正ニ佛國ニ
 於ルモノト相均シ然レモ此國ノ王權政体ノ因
 テ以テ助ヲ取リシ所ノ憲法ハ言フニ忍ヒ不聞
 クニ堪サルノ酷法ヲ用ヒ其苛酷ノ度ハ佛國ヨ

國羅巴夕明史
卷之十一

リモ甚シ佛國ノ憲法ニハ議院ヲ用ヒタルニ西
國ニテハ彼ノ「インキシシヨ」ヲ用ヒタリ「イン
シヨ」ノ法ヨリシテ數百萬無辜ノ生然レ其
夫ヲ虐殺スルハ苛虐後日ニ起レリ
初メ「インキシシヨ」ノ法ヲ立テタルノ主意ハ
之ヲ用ヒテ以テ國家ノ紛乱ヲ戡定センカ為メ
一時ノ權謀ニ出タル者ニシテ專ラ教門ノ為メ
ニセシ者ニアラス其本ハ教法ヨリハ寧ロ政法
タリシナリ佛西兩國ノ憲法ノ相同シカラサル
ハ此ノ如キモ其國形ノ彷彿相似タル者ハ甚タ
著明ナリ今試ミニ之ヲ國王ノ上ニ覽ハ其狀ヲ

解スルニ足ラン西王「エルクジナ」ノ機智詐謀
ニ富ムノ度ハ佛王「ル」ノ「サ」十一世ニ及カサリ
シモ其性負ト其政術ハ共ニ甚タ相近似セリ其
相近似スル者ヲ英列スルモ大利益アル者ナラ
ザレバ其相近似スル所最モ著明ニシテ之ヲ大
事ニ視又之ヲ小事ニ察スルモ其相近似スル所
ハ實ニ驚クヘキモノアリ
今之ヲ日耳曼ニ視ルニ亦均シク其狀相近似セ
リ墨土利亞侯家ノ日耳曼帝家トナリタルハ千
四百三十八年ノ事ニシテ爾來帝家ノ權勢ハ強

歐羅巴夕明史
卷之十一
十九

シタリ佛國トノ争戦ニハ其國民ハ國威ヲ失ハ
ジト銳氣ヲ鼓舞シテ之ニ従事シタルモ其般ス
ル所ハ全ク王家ノ為メニ利益ヲ致セリ英人ハ
古時ヨリシテ自己ノ財貨ヲ保護シ其根本ヲ堅
固ニスルニ於テ才智アリ決断ニ善ク敢テ輕舉シ
テ後害ヲ遺ササルニ有名ナリケレバ是時ニ當
リテハ後日ノ利害ヲ圖ラズシテ專ラ王家ノ望
ニ應シテ顧慮ナク遂ニ王家ノ權勢ヲ翼成セリ
税関巨万金ノ全額ハ「ヘンリ」五世即位ノ後久
シカラスシテ此王ノ終身ハ之ヲ王家ニ與ヘタ

區
羅
巴
妙
明
史
卷
之
十一

リ佛國トノ争戦未タ全ク卒ラサルニ彼ノ紅白
花ノ國亂起リ「ヨルク」「ランカストル」二家王位ヲ
争ヒ國中ノ貴族ハ互ヒニ二家ノ一ニ左袒シテ
勝敗永ク決セス内亂既ニ治リタルニ及ンテ英
國ノ貴族ハ其數ハ減シ其力ハ弱ク再ヒ古時ノ
如ク王家ニ抵抗シ王家ヲシテ貴族ヲ憚ラシム
ルニ足ラズ大貴族ノ連合モ王家ヲ管治スルノ
カナシ「チユードル」家王位ヲ得千四百八十五年
「ヘンリ」七世ノ踐祚ヨリ以後ヲ以テ政權一ニ
歸シ王家全勝ヲ得タルノ初期ト云フヘシ

ク消滅シ古史ニ記録セル所ノ自由ノ種類ハ數
ヲ盡シテ之ヲ失ナヒ従前既出ノ勢力ニ比スレ
ハ其制度更ラニ備ハリ其規模愈大ニシテ中央
集權ノ光景更ニ著明ナル新勢力ノ發生スルヲ
覽シ歐洲古時ノ自由ヲ消滅スル是ノ如キ者ハ
實ニ慷慨ニ勝ヘサルモノアリ當時既ニ悲憤ノ
士ノ切齒扼腕シテ時ヲ憂ヒ世ヲ怒ル者輩出セ
リ乃チ佛日兩國ハ勿論伊國ト雖凡千四百年代
ノ愛國ノ諸士ハ悲憤慷慨ノ心ヲ以テ當ニ專制
壓抑ト稱スヘキノ一勢力王權政体ヲ生セント

スルノ改革ヲ抗抵防禦セリ是等諸士ノ事業ノ
勇敢ナルハ實ニ感スルニ餘リアリ又之カ為メ
ニ其悲傷ヲ分領セサルヘカラス然リト雖凡當
時ノ志士ノ意ハ好スヘシ其行事ハ好スヘカラ
サルナリ何トナレハ當時王權政体ノ大權ヲ得
ヘキハ時勢ノ已ムヲ得ヘカラサルノミナラス
却ツテ此改革ハ社會ノ為ニ必要欠クヘカラサ
ルノ改革ナレハナリ古時封建ノ自由市邑ノ自
由等ノ如キ歐洲初發ノ政体ハ用井テ以テ全洲
全國ノ人民ヲ聚合飯一シ治安ヲ得ルノ機関ヲ

整備スルヲ得ス何ヲカ治安ノ機関ト云フヤ
曰ク安固ト進歩ノ二者ヲ云フ凡ソ國家ノ治安
ヲ保存セントスルニハ家産身軀ノ安固ト心智
世事ノ進歩トノ二事ヲ欠クヘカラス故ニ何政
体タルヲ論セス其時代ヲシテ安固ナラシメ兼
テ後來ニ向フテ文化ノ進歩ヲ促カスヘキ者ニ
アラサレハ之ヲ惡政体ト云フ其政体既ニ惡ナ
リ故ニ衆庶忽チ之ヲ嫌惡シ其政体ハ遂ニ權力
ヲ失ナフヘキ者ナリ千四百年代ノ古時ノ諸政
体諸自由ノ覆亡セルモ全ク上理ヨリ来レル者

ナリ既ニ古時ノ諸政体諸自由ハ國家ヲシテ安
固ナラシムル能ハス又進歩セシムル能ハサル
ヲ以テ世人ハ自然ニ安固進歩ヲ得ヘキ者ヲ他
理他道ニ求メタリ是レ實ニ上ニ講説セル諸變
動ヲ發生シタルノ原由ナリ

此時ニ當リテ歐洲ノ史乘中政事上ニ大關係ヲ
リ其性質形狀ハ上ニ講セシ所ノ者ト全ク相異
ナルノ形勢ヲ發現セリ是ヲ政府間ノ関涉ト謂
フ政府間ノ関涉トハ一政府ノ他政府ノ事物ニ
関涉スルノ義ナリ政府間ノ関涉ノ一定普通ノ

事トナリ頻々各政府間ニ関涉ノ起リタルハ千
四百年代ニ權輿ス此関涉ノ權輿スルヤ其本ハ
講和戰伐ノ為メ諸國ノ政府同盟シテ事ヲ謀リ
タルヨリ起リ後終ニ一國ノ強大ニ過キ他國ヲ
并呑シ暴行ヲ恣マニセシトテ防カン者為メ
ニ彼ノ所謂ル均權原語「バレンス」云フ一法ヲ
世ニ生スル事トハナレリ又歐羅巴外交術原語「プロ
トマシ」即チ外國ト條約ヲ締結スル等ノ如キ
外國ト大事ヲ議定スルノ學問法術ノ起リタル
モ同シク千四百年代ノ事ナリ歴史ヲ覽ヨ千四

百年代ノ季年ニ於テ歐洲大陸上ノ重要者タル
羅馬法王「シラン」侯「ガエ子チア」人、日帝、佛王、西王、
等ノ相會同合議シテ互ヒニ其利益ヲ均分セシ
トスルカ為メニ相交通スルノ數ハ之ヲ前時ニ
比スレハ頗ル多ク其一國ノ偏重ヲ防クヤ頗ル
密ナリ是ヲ以テ佛王「チヤートル」八世「子トプル」
王國ヲ攻略セント出征スルヤ西王、法王「ガエ子
チヤ」諸市邑等同盟シテ「チヤートル」王ヲ攻撃シ
又千五百八年ニハ「ガエ子チヤ」ノ強大ナラント
テ恐レテ之ヲ妨ケント「カムブレ」ノ會盟アリ

歐羅巴多明地

之

之ニ繼キテ「ル」ト「井」ト「十二世」佛ニ抗セシトシテ
同十一年ニ「ホ」ト「リ」ト「リ」ト「グ」ノ神盟アリ此會盟ニ
王、及「ヒ」^ウ「エ」^子「チ」是等ノ諸會盟ノ起リタルハ其
「ア」ノ市邑與カル是等ノ諸會盟ノ起リタルハ其
本ヲ伊太利政術ニ皈セリ伊太利政術ナルモノ
ハ各國ノ帝王皆各其領地ヲ固保シテ以テ他ノ
土地ヲ攻略シ版圖ヲ廣大ニシ勢力ノ偏重ヲ得
テ以テ四隣ヲ壓制セシトスル者ヲ禦カントス
ルノ意ニ出テタル者ナリ斯ク會同ノ起リ政府
間ニ關涉ノ生シタル者ハ王權政体ノ其威權ヲ
增長セントスルニ最モ便宜ナルモノナリキ其

便宜ニニアリ第一ニ外國ニ關涉スル事物ハ固
ヨリ之ヲ衆庶ニ皈スヘキ者ニアラス必ラス之
ヲ一人若クハ寡數ノ人ニ委任セサルハカラス
然ラサレハ必ラス内國ノ密事ヲ洩漏スルノ恐
レアリ外交ニハ必ラス或度ノ隱秘ヲ要ス第二
ニ當時ノ人民ハ其智識ノ進歩不足ニシテ國王
政府ノ會盟合謀スルモノハ其結局遂ニ自己身
上ニ何等ノ禍福ヲ生スヘキヤヲ預知スル能ハ
ス其目前ノ事物ヲ見レハ一点ノ自己身上ノ利
害ニ關涉スル所ノ者ナキヲ以テ國民ハ安ンシ

臨
野
明
史
耕
之
十
一

ハカヲサル所ハモナリ凡ソ國民ノ外國事務
ニ関與シ善功ヲ奏セントスルニハ先ツ文化ノ
度大ニ進ミ才智大ニ開ケ又頗ル政務ノ處分ニ
明カナラサレハ能クシ難キナリ然ルニ千五百
年代ヨリ千七百年代マテノ時限ニハ人民ノ進
歩未タ此ノ如キノ高度ニ達セサルヤ甚タシ試
ミニ千六百年代ノ始メ「ジエーム」一世ノ時英
國ニ起リタル一事ヲ採リテ之ヲ示サン王ノ女
夫「エレクトル」パラチ「」ハ撰立サレテ「ボヘミ
」王ト為リタルニ事故アリテ王位ヲ廢サレ剩

サハ其世襲ノ領國「」ヲチ子ト「」ヲ奪ハレタ
ル片ニ當リテ各地ノ「」ロラスタン「」宗西教ノ
美ナル者ト云フ徒盡ク此廢王ニ左祖シタリ
是ニ於テ英人モ亦之ヲ好機會トシテ廢王ノ為
メニ軍ヲ起サント欲シ輿論ヲ以テ英王「ジエー
ム」スヲ動カシ強ヒテ其女夫ノ為メニ其領地ヲ
恢復セシメントシ議院モ戰事ニ決シ軍費ハ之
ヲ支給シテ不足ナカラシメント「」ヲ固約セリ然
ルニ「ジエーム」王ハ敢テ爭戰ヲ好ヤス之ヲ議
論ニ決セント寡兵ヲ日耳曼ニ送リタル後若シ

廢王ノ為メニ出征センニハ其費用トシテ九十
万^ポンドステルリングヲ給スルニ非サレハ軍
ヲ舉ケ共ニ權衡ヲ爭フ能ハスト議院ニ出題シ
タリ九十万^ポンドステルリングハ實ニ必要ノ
金額ニシテ王ノ慾心ヨリ出タル者ニアラサレ
氏議院ハ是ノ如キ莫大ノ金額ヲ要セントスル
ヲ見テ驚愕シ數回ノ問答ノ後僅カニ七万^ポン
ドステルリングヲ出スヘキヲ許セリ九百里^英
ヲ以テ算ス我里法ニ化シ外ニアリテ一國ヲ克
テ三百七十里許リナリ外ニアリテ一國ヲ克
復シ廢王ヲ復立セントスルニ於テ僅カニ七万

ポンドステルリングヲ以テ足レリトスルカ如
キ無算ノ議院ナルヲ見ハ以テ此種ノ事務ニ関
シテハ國民ノ外事ニ暗ク政術ニ疎ク事物ノ輕
重ヲ知ラス事理ノ變動ヲ察セサルハ推シテ知
ルヘキナリ是ノ如キノ人民ニシテ如何ソ能ク
外國ノ事務ニ関涉シテ嘉謀善議ヲ發スルトヲ
得ヘケンヤ其形狀此ノ如シ是レ實ニ外國ノ事
務ヲシテ全ク國王掌中ノ特權ニ歸セシメタル
由縁ナリ然ラハ則チ國利公益ノ如キハ決シテ
望ムヘカラサルモ當時外國ノ事務ヲ處置シテ

事宜ヲ測リ機變ニ應シテ其計較ノ着實ナルハ
キ者ハ國王ヲ捨テ、他ニ歸スヘキ者アラサリ
シナリ
以上講スル所ニ依レハ當時各國內外ノ政務上
ニ屬スル事物タル軍法政術稅則等ノ如キ者ハ
盡ク其狀相同シク古時諸色ノ元質ノ分裂隔離
セル者ハ聚合皈一セントシ公利公權ハ偏重シ
テ其權力強大トナラントスルノ勢アルヲ觀ル
ヘシ是レ俟シナカラキ四百年代ニアリテハ冥
々ノ中ニ經營スルノ事業ニシテ當時未タ外狀

ニ明現シテ社會ノ一變革ヲ實施シタル者ニア
ラス其行動ハ特ニ後日將サニ發生セントスル
諸事物ノ為メニ預メ之カ基礎ヲ為スモノナリ
今更ラニ下條ニ於テ上條ト其性質ヲ異ニスル
所ノ者ヲ講セン乃チ人心ニ関スル所ノ諸事是
ナリ其人心ニ関スル諸事ハ專ラ心智解發シテ
衆意ノ同一ニ歸着スル所ノモノナリ是等諸事
ニ於テモ亦上條ト均シク各地ニ同形状ヲ現シ
其結果モ亦相同シキヲ見ン
心意思想ニ関シ又其狀多變ニシテ且ツ常ニ歐

羅巴史中重要ノ部位ヲ占領セルハ聖會ナリ故
ニ先ツ聖會ニ管スル事物ヨリシテ人心ノ状情
ヲ講シ起サン千四百年代ニ至ルマテ衆民ノ意
思ノ歸着スル所ハ都テ多少教門ニ關スル者ノ
ミニシテ心意ヲ管理規定シ又心意ノ方向ヲ指
示スルノ權ハ獨リ聖會ニ在リ其間思想ノ獨立
ヲ謀リ聖會ト分離センコトヲ計リタル者モ亦少
ナカラス聖會モ亦其獨立分離ヲ壓抑セント盡
力シ當時ニ至ルマテ聖會未タ嘗テ敗斂セス常
ニ衆庶ノ思想ヲ管理スルコトヲ得テ聖會ノ排棄

シタル教義ハ人心ニ固着周布スル能ハスアル
ビシエシシ前ニ出ツ西ノ如キハ其勢力頗ル
廣大ナリシト雖凡遂ニ其獨立ヲ支持スルコト能
ハス教義ノ爭論ハ聖會中ニ斷ヘサリシモ異論
者其功ヲ成ス著シカラサリキ然ルニ千四百年
代ニ至リテハ其狀大ニ變更シ來リ新意思ハ群
起シ教法改革ノ志念一般ニ行ハレ以テ聖會ヲ
懾慄セシムルニ至レリ千三百年代ノ末千四百
年代ノ始メノ頃ハ正ニ法王ノ居處ヲ「ガキ」
佛地ニ移シ「ガキ」ト羅馬トノ兩地ニ二法

王ヲ立テ、歐洲ニ二個ノ法王アリ以テ所謂ル
西教ノ大分裂原語グレイト、シバム、ナル者ヲ生
ニ起リ是ニ於テ千四百九年是實ニ千三
ヲ設ケ二個相争フノ法王ヲ廢シ別ニ一新法王
ヲ立テ、以テ其争論ヲ平定セント圖リタレ
此舉動ハ分裂ヲ定ムル能ハサリシノミナラス
轉々其争論ヲ激セシメタリキ
是ニ於テ二法王ハ再ヒ増シテ三個ノ法王トナ
リ教門ノ紊乱ハ更ラニ增長シ教法ノ患弊轉々

猛劇トナリタリ千四百十四年ニシジスモンド
帝ノ意ヲ以テ設立セル「コンスタンツ」ノ教長會
ハ新法王ヲ撰立スルニ留ラス更ラニ教法ノ改
革ヲ企テタリ此會議ヲ立テントスルヤ先ツ此
大會議ハ決シテ廢止スヘカラサル永久固定ノ
會議ニシテ其權ハ法王權ノ上ニアルハキ者ナ
ルヲ公布シ之ヲ以テ聖會ノ大本ト為シ以テ聖
會ノ患弊ヲ改革シ就中從來羅馬法王朝ノ金銀
ヲ強取セル暴法ヲ改革セシメテ圖レリ此希望
ヲ成シ遂ニカ為メニ聖教諸國ヨリ撰シテ代理

事者ヲ出シ以テ聖教監督學校ト稱スヘキ者ヲ
設立セリ此學校ノ主任ハ專ハラ聖會ノ非道ヲ
查察シ又之ヲ釐正スヘキノ方法等ヲ考ヘ之ヲ
此大會議ニ報シ以テ其應サニ行フヘキノ方法
ヲ協議セシムルニアリ此大會議斯ク教法ヲ釐
正セント盡カセル間ニ於テ一個ノ新思想生シ
來レリ即チ教法改革ノ事ハ之ヲ聖會ノ首長タ
ル羅馬法王ノ一致モナク許允モナク恣ニ行フ
モ不可ナキヤ否ヤノ一疑團出テタルヨリ法王
黨ハ好機會ヲ得タリト悦ンテ法王ノ許允ナキ

者ハ改革スルコトヲ得ヘカラスト抗論シ人民ノ
智識アル者ト雖凡其資質柔弱怯懦ナル者ハ盡
ク其議ニ同シ遂ニ教弊釐正ノ業ヲ果ス能ハス
爾後教長會ニテ相爭フノ三法王ヲ廢シ千四百
十七年「マルチ」五世ト云フ新法王ヲ立テタリ
原來此法王ヲ立ルヤ預シメ聖會改革ノ方法ヲ
吩咐シタリシカニ法王既ニ立チ其位ヲ得ルニ
及ンテ前約ニ背キ改革ヲ肯ンセス是ニ於テ教
長會ハ遂ニ離散セリ「コレ」スタン「ス」ノ教長會ト
同意見ヲ以テ千四百三十一年新タニ「バー」ルニ

教長會ヲ設ケ均シク教法ノ改革ヲ努力セシカ
氏其成功ナカリシハ尚ホ「コンスタンツ」ノ教長
會ノ如クナリシカ加之カニ所ノ教長會中ニ異論ノ
紛起セルハ亦聖會ニ於ケルカ如クナリシ法王
ハ「カ」カノ教長會ヲ移シテ「カ」カ伊太利ニ立
テ後又之ヲ「カ」カ亦伊太利ニ移シタリ然
ルニ教長會中ニ法王ノ處置ヲ非トセル者ハ尚
ホ「カ」カニ住シ法王ノ命ニ従カハス曩時ニ法
王ノ存在セルカ如ク今ハニ教長會存在シ「カ」カ
ルノ教長會ハ更ラニ「カ」カ五世ヲ立テ、法

王トナシ專ラ改革ヲ事トシ後其議院ヲ「カ」カ
「カ」カ瑞西ノニ移シタリシカカ其希望ヲ果ス
能ハスシテ千四百四十九年ニ自カラ集會ヲ解
キテ離散セリ
羅馬法王ノ遂ニ衆難ヲ排シテ仇敵ヲ敗リ戰場
ヲ得テ自家ノ有トシ聖會ノ政權ヲ專ハラニス
ル「カ」カ得タルノ状上ノ如ク教長會ノ努力希望
セシ所ノ事物ハ一モ成シ遂ル「カ」カ能ハサリシ然
レ其功ハ思ハサル所ニ存シ教長會廢絶ノ後
ニ留存セリ其留存セルハ何物ナランヤ曰ク「カ」カ

ルノ教長會ノ企テタル教法改革ノ計謀ハ成
ラス既ニ廢絶セル時ニ於テ諸國ノ君主ハ盡ク
此議院ニ公布セル意見ヲ取用シ又其制定セル
方法ヲ嘉納シ佛王「チャールズ七世」ハ「ブルノ
教長會」ノ跡ヲ逐フテ千四百三十八年「ブラグマ
チツク」サニクシヨ「ト」稱スル會議ヲ「ブールジ
ニ」設立シ監守ヲ撰ヒ初穂初穂ハ原語「アン」ナツ
ト云フ古時僧徒職
ヲ受テタル者其初年ノ所得ヲ「禁シ聖會ノ患
法王ニ致セル稅ノ一名ナリ」
業中ノ重大ナル者ヲ改革シ此法ヲ以テ佛國ノ
憲法ト定メタリ日耳曼ニテモ千四百三十九年

「メ」アン「ス」ノ會議ニ此法ヲ取用シ日耳曼帝國
ノ憲法ト定メ神權ノ力ヲ以テ為ス能ハサル所
ノ變革ハ斯世ノ權ヲ以テ成全スヘキノ勢力ヲ
リ教長會ニ企テタル改革ハ其功ナク國王ノ
企テタル改革ハ其功ヲントスト云フノ意
斯ク國王カ教法ノ惡弊ヲ改革セルハ其狀頗ル
確乎トシテ動カサル如クナリシト雖其造化
甚タ可ナラス日耳曼ハ法王「ニコラス」五世ト同
謀センカ為ニ千四百四十八年ノ會議ニ教法改
革ノ條例ヲ廢止シ佛國ニテハ千五百十六年「
ラ」ン「シ」ス「一」世モ亦法王「レ」十世ト同盟セシ片

ニ其條例ヲ廢止シ國王ノ圖謀セル改革モ亦僧
徒カ前日ニ為セシカ如ク其功ヲ遂クル能ハサ
リキ教長會ノ失敗セルト同シクアラクマチック
サンクシヨシモ亦失敗セリ然リト雖其勤勞
ハ全ク無益ナリシ者ニアラス教長會アリテ
ラクマチック、サンクシヨシヲ生シタルカ如ク
ラクマチック、サンクシヨシモ亦其後継ヲ存シタ
リ其後継ノ近古史中最モ重要事物タルハ後編
之ヲ詳説セシ「バール」ノ教長會ノ旨趣ハ其效驗
著明盛大ナリキ志士智者ノ見ル所尽ク「バール」

ノ教長會ト一致シ「シヨシ」ヲ「パリ」ス「テ」リ「ト」
「ガル」ソ「シ」及ヒ其他當時千四百著名ノ士此會院
ノ旨趣ヲ嘉賞取用シ之カ建設保護ニ盡カセリ
教長會ハ廢止シタリト雖「バール」マチック、サン
クシヨシハ棄絶サレタリト雖其教門政府法
朝王ヲノ愚弊ヲ改革センカ為ニ公布シタル教令
ハ佛民ノ肺腑ニ固着シ再ヒ削リ去ルヘカラス
シテ其意氣次第ニ他國ニ敷及シ終ニ其氣風ハ
各國ノ議院ニ漸及シ衆庶ノ意志ハ益々教法ノ改
革ニ皈向シ初メニ「シヤ」ンセシ監司名派ノ宗徒ヲ

生シ次ニ「カリカン」派ノ宗徒ヲ生シタリ斯ク聖
會ノ教法ノ改革セサルハカラサルノ理ヲ與ハ
其成業ヲ圖ル者群起シ其形ハ異ニ其名ハ殊ナレ
其本ヲ皈スル所ハ相同シク其希望スル所モ亦
均シカリシ其之ヲ創ムル者ハ「ゴレスタン」ノ
教長會ニシテ之ヲ終フル者ハ「ホスー」ノ題目
ニアリ
此題目ハ千六百八十二年佛王「ルー」井「ス」十四
世ノ命ヲ以テ集會スル佛國諸僧徒ノ大會ニ
「ボスー」トノ書シタル者ナリ其一、教門ノ權力

ハ上帝之ヲ基督ノ代管者即チ法王ニ皈スル
モ現世俗事ノ權力ハ之ヲ基督ノ代管者ニ歸
セズ其二、基督ノ代管者ハ教門ニ權力アルモ
之ヲ專ラニスルヲ得ス其權力ヲ限制スル
ハ聖會律法ト大教長會トヲ以テス其三、法王
ノ制令ト雖モ「カゾリ」ク「聖會」ノ准允ナキ者
ハ必行ヲ得ヘカラス又敢テ變改スヘカラス
ル者ニアラスト以上三題目ハ實ニ「カリカン」
宗派獨立ノ基本トスル所ノ者ナリ
千四百年代教法改革ノ事業ハ盡ク失敗シ其功

ハ眼前ニ成就セサリシモ間接ニ文明ノ進歩上
ニ大功ヲ奏セリ故ニ之ヲ文明史中ニ記載セス
ンハアルヘカラサルナリ
諸教長會ノ改革ニ勉力セシ者ハ實ニ事情ヲ洞
察セル者ト云フヘシ若シ果シテ能ク其希望ヲ
遂ルコトヲ得セシメシナラハ教門ノ大變動ハ發
スルコトナカラシヒサノ教長會ハ聖教ノ大分裂
ヲ鎮メントシ又「コンスタン」ノ教長會ハ教法
ノ惡弊ヲ改革セント勉力セシ時ニ當リテ衆庶
ノ教門改革ヲ圖ル者初メテ「ボヘミヤ」日耳曼列
國中ノ一

區區巴夕明

ナニ現ハレ「ジョン」ハツ「ス」ハ教門ノ改革者トナ
リ千四百四年「ブレ」ボヘミヤニ於テ開講シ
其說大ニ行ハレタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ當時
二種聖會ノ改革黨并起セリ一ハ聖會ノ中ニ發
シテ諸教長ノ教法ノ不正ニシテ永續スル能ハ
サルヲ察シテ聖會ノ覆亡ヲ支住セントスルノ
畏懼小心ヨリ生シタル改革ニシテ教門ノ候權
政体ト謂フヘキ者ナリ一ハ聖會ノ藩圍外ニ起
リ聖會ヲ攻撃セントスル者ニシテ其意ハ猛烈
ニ其氣ハ急劇ナル者ナリ是ニ於テ此二黨間ニ

争擾ヲ起シ教長會ハ「ジョン、ハツ」ス及ヒ「ジエロ
ーム、オヴ、プレীগ」ノ兩人ヲ誑キテ「コンスタ
ン」ニ誘キ来リ異端及逆者ヲ以テ罪シ之ヲ火殺
セリ是種ノ事件ハ實ニ吾人潜心推究スルニ利
アル者ナリ兩改革黨ノ起ルヤ一ハ政府ノ事業
一ハ人民ノ事業ニシテ并起并立シ相争競嫉妒
セルモ原来其起因スル所モ既着スル所モ共ニ
同一處ナルヲ以テ終ニ其功業ノ成ルニ至レハ
必ス同效驗ヲ奏スヘキハ卿等ノ了解スル所ナ
ラン以上千四百年代ニ發現シタルノ事件ナリ

「ジョン、ハツ」スカ開基スル所ノ民間ニ教門改革
ヲ勉ムルノ一派ハ教長會ノ詐謀ノ為メニ其首
長ヲ失ハレ暫ク其形迹ヲ隱伏シタレモ首長「ハ
ツ」死後三四年ニ其形迹ヲ再現シ所謂「ハツ
」宗派ノ争戦ナル者起リ勝敗久シク決セサリ
シガ「ハツ」宗徒遂ニ敗績シタリ那ノ諸教長會
ノ改革ノ其功ヲ遂ケサリシハ適以テ人心ヲ鼓
動沸騰セシムルニ足リ其改革ヲ欲スルノ氣ハ
轉劇烈トナリ早晚必ラス其希望ヲ遂ケント常
ニ機會ヲ窺ヒ終ニ千五百年代ノ始ニ於テ再ヒ

激發セリ若シ當時諸教長會ノ希望果シテ能ク
行ハレ以テ教法ノ大害ヲ除去スルヲ得ルニ
至リシナラハ人民ノ改革人民ヨリ教法ヲハ恐
クハ止熄セシナラン然レモ人民ノ改革成功ナ
ケレハ教長會ノ改革ハ必ラス其功ヲ成シ教長
會ノ改革成功ナケレハ人民ノ改革ハ必ス其功ヲ成
スヘキナリニ党共ニ敗歟シテ改革ノ迹ヲ滅絶
スルヲナカラン何トナレハ二党ノ趣ク處ノ相
合スル者ハ必ラス其事情上ニ改革ノ實ニ已ム
ヘカラサル者アルヲ證スヘケレハナリ舉事ノ

事情ヲ合スル者ハ決シテ其成功ヲ過タス
以上教門ノ候權政ガ教法ノ改革ヲ圖リタル者
モ其希望ヲ遂ル能ハス人民ガ教法ノ改革ヲ圖
リタル者モ亦其目的ヲ達スル能ハサリシモ機
會ニ投シテ再起セント常ニ窺伺ノ志ヲ懷キシ
者ハ乃チ是レ千四百年代ノ季年ニ至ルマテ教
門ニ関スルノ形状ナリ
當時人心ノ皈向スル所ハ特ニ教門信仰ノ上ニ
ノミ傾注セス卿等モ知得セルカ如ク既ニ千三
百年代ヨリシテ希臘羅馬ノ舊經古典ハ歐洲ニ

羅馬正史 卷之十一 四十一

中興セリ「ダン」ト「バ」ト「フル」ト「ホ」ツカシ及ヒ其
他著名ノ學者ハ希臘羅馬ノ手書古時印書ノ術
ナリヲ搜索スルヲ勉メ片紙尺書ト雖此之ヲ獲
ルアレハ舉世雀躍シテ之ヲ喜ヒ輒チ之ヲ世ニ
公ニシ以テ世人ノ智識ヲ廣メン「」ヲ圖リ始メ
テ經典學校ナル者ヲ起シタリ此學校ノ能ク人
智ノ解發ニ大利洪益アリタルハ速ク諸記者ノ
見ル所ニ超越セリ此經典學校ヲ以テ現今ノ經
典學校ト同物ナリト誤リ看做ス「」ナカレ當時
ノ經典學校ナル者ハ特ニ文字文學ヲ考究スル

ニ止マラス此學校ニ教授スル所ハ「」ホ
トマ「」ル共ニ羅馬ノ賦詠及ヒ古時ノ國狀憲法
思想并ニ理學文章ニ至ルマテ盡ク之ヲ授業セ
リ又學政術ヨリ理學ニ至ルマテ古時ノ希臘羅
馬ハ實ニ千三百年代及ヒ同四百年代ノ歐羅巴
ニ超越セル万々ナリ是ヲ以テ思想高上ニシテ
且ツ其性剛毅ナル者ハ當時ノ世上觸目ノ万事
卑陋醜劣ナラサルハナキヲ見テ之カ為メニ慷
慨ヲ起サ、ル能ハス憤悶ノ餘、風俗思想更ラニ
善美ナル古時ノ學問ヲ熱愛シ又之ヲ尊重シタ

歐羅巴史 卷之十一

ル者彼々如キハ敢テ怪訝スルニ足ラサルナリ
 是ヲ以テ千四百年代ノ初年ヨリシテ思察ヲ練
 磨スルノ人民ハ此學校ニ輻湊セリ故ニ此學校
 ハ教長、法官、及ヒ學士ノ聚集スル所ノ地タリ故
 ニ此學校中ニ於テ才智出群ノ諸士ノ心思ヲ一
 ニシ其方向ヲ同フシ以テ英士大人ノ公論ヲ發
 スルコトヲ得タリキ
 歐洲内地古學ヲ尚フノ風漸ク盛ニナラントス
 ル時ニ當リテ千四百五十三年ニ土耳其人ハ「コ
 ンスタンチノープル」ヲ陷シ「東羅馬帝國」滅

亡シタルヲ以テ希臘人ノ亂ヲ避クル者ハ伊太
 利ニ流注セリ其流民中古學ニ通シタル者少ナ
 カラス又古經舊典ヲ齎シ來レル者モ夥シカリ
 ケレハ古時開化ノ光景ヲ學習スルノ器用更ラ
 ニ増殖シテ容易トナレリ卿等須ク想察スヘシ
 古學ノ器用ノ増殖シ更ラニ容易トナリタルヲ
 以テ愈其古學ヲ講習シ且ツ古時ノ開化ノ景慕
 スヘキヲ曉リ更ラニ經典學校ノ氣炎ヲ擴張シ
 タリ此時限聖會ハ既ニ政權稍衰運ニ屬シタリ
 シモ其富厚奢侈ヲ極メタルハ當時ヲ以テ其最

トス就中伊太利ハ其頭首タル地位ヲ占メタル
ヲ以テ伊國ノ聖會ハ直チニ文學藝術及ヒ其他
身世ノ快樂トナルハキ華美懶惰放逸ナル文化
ノ諸物ニ身心ヲ耽ラシ他事ニ心ヲ馳スルニ暇
アラザリキ請フ試ミニ當時政事文學ヲ以テ鳴
リタル人々ノ生涯ノ行徑ヲ見ヨ其例トシテ「カ
ルジナル」僧官「ムボ」ヲ擧ケン此「カルジナル」
ハ實ニ一人一身ノ上ニ合スル能ハサルカ如キ
反性ノ諸状ヲ現セリ乃チ遊治奢侈ニシテ聰明
睿智ナリ風習ハ虛弱ニシテ心思ハ最モ剛毅不

屈ナリキ當時ノ事物ヨリ特ニ一人ノ思想及ヒ
人々ノ交際上ニ関スル者ヲ抜ヒテ之ヲ察スレ
ハ聰明ヲ得ント欲シ新理ヲ發覺セント欲シ快
樂安居奢侈放縱ヲ好ミ政道心學ヲ関カンヲ
勉メ其思想活潑ニシテ事ヲ為ス親切ナル等盡
ク千七百年代ノ佛國ノ人民ヲ見ルカ如キノ感
覺アリ千四百年代ノ學者ト聖會ノ教長トニ於
ケルノ状情ハ正ニ千七百年代佛國ノ文學者理
學家ノ當時ノ貴族ニ於ケル者ト相類シ其論說
風習ハ相同シク相共ニ嬉々トシテ並肩比立シ

嘗テ後來ニ至リ仇讎トナリ両黨間ニ爭擾ノ起
ランコトヲ夢ニモ想及サス千四百年代ノ教長中
彼ノ「カルダナル、ベムボ」ノ如キ者ト雖モ後日
「リエゼル」「カルヴン」等ノ起リテ教門ニ大變革ヲ
生スベキヲ前知セス又「ル」ノ十四世千七百
佛國ノ朝官ハ後日佛國ニ大變動アラシムコトヲ前
知セサリシナリ此二事ノ相近似スルモノ實ニ
適切ニシテ毫末ノ差違ナシ
吾人はニ於テ當時ノ社會ノ思想上ニ三個ノ大
事件ノ發シタルヲ見ルコトヲ得タリ即チ第一ニ

聖會中ニ自カラ教門ノ改革ヲ企テタル者第二
ニ人民外ヨリ教門ノ改革ヲ企テタル者第三ニ
心思ノ變革即チ思考練磨ノ學校ヲ設立セル者
是ナリ是等ノ三大事件ハ方サニ歐洲ノ政状變
革シ人民ト政府トノ一聚合スルノ大變動中
ニアリテ構成セル心思ノ變動ナリ
當時ノ變動ハ政治思想ノ二大變動上ニ止マラ
ス當時ハ實ニ身体ノ活潑ナル古今ニ卓出セル
時限ナリキ即チ航海、遠遊、ヨリシテ危險ヲ冒シ
新地方ヲ發覺シ、又諸術ノ發明等ニ最モ著シキ

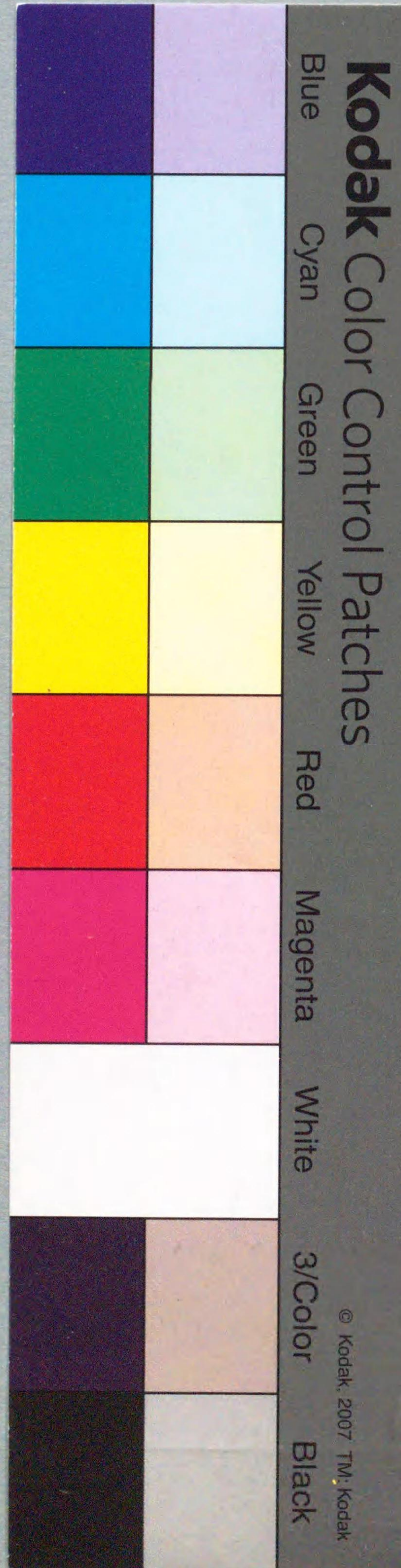
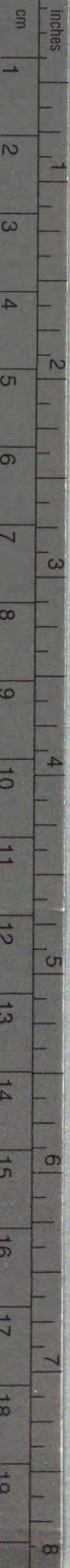
時限ニシテ葡萄牙人「ヴァスコ・ダ・ガマ」ハ亞非利
加ニ傍ヒ喜望峰ヲ廻リテ印度ト歐羅巴トノ航
路ヲ發明シ「クリスト・コロンブス」ハ亞米
利加ヲ發覺シ歐洲ノ貿易通商ハ忽チ洪大トナ
リ千百ノ發明一時ニ生セリ中ヨ其術ハ既ニ古
時ヨリ發明アリタルモノモアレハ其用所ハ狹
小ニシテ未タ大用セサリシモノモ是時ヨリシ
テ之ヲ大用スルノ法方ヲ發明シ世間一般ノ便
利トスル所ノモノトナレリ火藥ノ發明ハ軍法
ヲ一変シ羅針ノ發明ハ航海ノ法ヲ一変シ油繪

ノ發明アリテ歐洲畫工ノ名人輩出シ銅版ノ發
明ハ千四百六年ニアリテ忽チ大用サレ麻紙ハ
世間普通ノ紙トナリ千四百三十六年ヨリ同五
十二年間ニ印書ノ術ヲ發明シタリ此術ノ發明
ノ利益ノ洪大ナルハ諸書ニ之ヲ稱述スル嘖々
タレハ未タ其大利洪益ノ全功ヲ稱賛シ盡ス
能ハサルナリ上ニ掲クル所ハ當時ノ諸發明中
ノ梗概ニシテ最モ重要ナル者ナルノミ
以上講スル所ヲ以テ見レハ千四百年代ノ人民
ノ活潑高大ナリシヲ知ルヘキナリ其高大ナル

ハ當時尚ホ藏レテ顯ハレス其活潑モ亦當時直
 チニ其奏功ヲ得タル者ニ非ラス改革ノ起頭彼
 カ如ク猛劇ナリシ者モ失敗シテ再ヒ興起スヘ
 キノ勢ナキカ如ク教門世俗ノ二政府ハ確乎不
 動ノ状アリ是ノ如キ外形上ヨリ視察スレハ國
 家ノ秩序既ニ立チ世人太平ヲ樂ミ文化進步ノ
 度曁昔ニ倍スヘキヲ想フヘキナリ然リ而モ亦
 謂千五百年代人諸大變動ハ久シカラスシテ勃
 興セリ此變動ノ起レルハ千五百年代ニ起レル
 者ニアラス既ニ千四百年代ニ於テ幽暗ノ中ニ

之ヲ培植預備シタル者ナリ千五百年代ノ諸大
 變動ハ將サニ次編ニ講ヒントスル所ノ主意ナ
 リ

歐羅巴文明史卷之十一終



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19

